

# 平成30年度 第1回豊川市環境審議会 議事録

日 時 平成30年11月6日（火）

午後1時30分～午後3時10分

場 所 豊川市役所本34会議室

## ■出席者

（委 員）

藤田 佳久（愛知大学名誉教授）  
大門 裕之（国立大学法人豊橋技術科学大学教授）  
中島 国輔（愛知県地球温暖化防止活動推進員代表）  
田中みや子（愛知県地域環境保全委員代表）  
河合 和寛（豊川商工会議所産業基盤強化委員会委員長）  
伊藤 文則（一般社団法人豊川市医師会監事）  
安藤 和史（豊川市連区長会元理事）  
山口 五月（豊川リサイクル運動市民の会副会長）  
浜口比呂子（エコ☆はじめの一步役員）  
元山 哲（東三河総局県民環境部環境保全課課長）  
西脇ひとみ（豊川保健所生活環境安全課課長）  
菅沼由貴子（豊川市教育委員会教育委員）

（事務局）

|              |       |
|--------------|-------|
| 環境部部长        | 中野 正晴 |
| 環境部次長兼環境課長   | 鈴木 一広 |
| 環境部清掃事業課長    | 杉原 成和 |
| 環境部環境課課長補佐   | 岡本 譲  |
| 環境部清掃事業課課長補佐 | 林 俊光  |
| 環境部環境課環境政策係長 | 波多野延行 |

## ■議 題

- （1）次期豊川市環境基本計画の策定について
- （2）次期豊川市環境基本計画策定に向けたアンケート調査票について

## ■会議内容

### 1 あいさつ

豊川市田中副市長よりあいさつ

### 2 会長あいさつ

豊川市環境基本条例第26条第2項「会長は会務を総理し、審議会の会議の議長となる」となっております。藤田会長にごあいさつをいただき、その後、議事の進行をお願い

したいと存じます。

### 3 議題

#### (1) 次期豊川市環境基本計画の策定について

事務局 概要説明

・委員からの意見および事務局回答

(会長)

ただいま、事務局から条例、スケジュール、構成案について資料を使って説明がありました。メインは構成案になると思いますが、ご意見、ご質問がございましたらお願いします。

(委員)

ひとつ伺います。今回SDGsの話が出てきましたが、アンケート調査票をみたところ、そこにはSDGsに関する設問が入っていないように感じました。このことについてはどのようにお考えでしょうか。

(事務局)

直接SDGsに関する設問はありませんが、それぞれの設問から読み取れるような構成にはしています。

(委員)

もしそうであれば、「この設問はSDGsのターゲットのこれに当たります」といったことはしないのですか。各設問は、SDGsのターゲットの何かしらに該当するとは思われますが、SDGsを豊川市が計画の前面に出すのであれば、そのようにアンケートを調製すべきではないでしょうか。

(事務局)

SDGsのターゲット169項目を全て確認しましたが、漠然とした項目が多いように感じました。そのため、直接的に「この設問はSDGsのここに該当しています」と言うことは難しいかなと感じています。ただし、アンケート調査を分析していく中で整理していくことが可能と考えています。

(委員)

豊川市としてSDGsをどのような位置づけにするかしっかり考えておけば良いのではないかと思います。

(委員)

国の第5次環境基本計画についての説明会を受けた際、循環型社会（第4章第3節）に関してプラスチックごみをどうするかという整理が環境省でも課題と言っていました。プラスチックごみ問題は社会問題のひとつとなっているため、来年早ければ年内にも国の方針が出されるとのことなので、できればこうしたことも計画の「循環型社会」に加えた内容にしていきたいと思います。

(事務局)

今、委員からお話がありましたようにマイクロプラスチックによる海洋汚染が最近取

り上げられております。海洋汚染と聞いてもピンと来ないかもしれませんが、魚介類に蓄積され、ひょっとしたら私たちの口に入るかも知れませんが、市としては、そのようなごみを出さないことが対策の一番になると考えています。最近では、喫茶店でもプラスチックのストローを使用しない方向に向かっていますし、レジ袋にしても使用を減らすなど使用する機会を減らしていく、もしくは使ったとしてもきちんと捨てるといったことは、市民レベルでも十分できる対策だと考えます。従って、プラスチックごみについては、計画に取り入れたいと思います。

(委員)

プラスチックごみもそうですが、環境省あるいは農林水産省から、家庭で出る生ごみの排出量を減らす通達が出ていないですか。

(事務局)

通達という形では来ていませんが、国や県は食品ロスを削減しようというキャンペーンを昨年あたりから力を入れています。県もイベント等を開催しており、豊川市に対しても啓発の協力をお願いしたいといった話をいただいています。

(委員)

豊川市の焼却炉の更新や今後の広域処理計画と、今回の環境基本計画との位置づけや兼ね合いはどのようになっていますか。

(事務局)

基本的には、ごみに関連する計画は別に策定しています。環境基本計画は大きな括りとして考えており、その中に家庭ごみや事業ごみ、リサイクルといった項目が一部を構成しているつくりとなっています。細かな更新計画等については、個別の事業案として計画を立てていきたいと考えています。特にごみ焼却施設の広域計画などについては、一部エッセンスを含める形として、特に市民や事業者に影響する部分については環境基本計画の中に位置づけていきたいと思います。基本的には、ごみに関連する各種計画は、環境基本計画とリンクするようにしていきます。

(会長)

まだ検体数は少ないものの、海外では人の排便からマイクロプラスチックが見つかったということが報告されています。人体にどのような影響があるかはこれからの研究を待たねばわかりません。

ほかに意見ございますでしょうか。こういう方針で進めていくということによろしいでしょうか。

我々が学生を指導するときも、最初にこうした章立てを作らせて頭の中を整理させて、あとはそれに見合うものを集めて、全体の論文をまとめていくということをやっていますが、この計画策定では材料を集めるところからこの1年間でやらなくちゃいけませんので、そこが重要だと思います。

本計画が前回計画から変わった点は、第5章(地球温暖化対策実行計画)が新たに追加されたことです。当初はあまり重視されていなかったものの、最近10年間で大きなウエイトが出てきたため本計画で採り上げるものです。

それでは他にご意見が無ければご了解いただいたということでよろしいでしょうか。ご意見がなければ議題の1点目、次期豊川市環境基本計画の策定についてはお認めいただいたということで進めさせていただきます。

(2) 次期豊川市環境基本計画策定に向けたアンケート調査票について

事務局 概要説明

・委員からの意見および事務局回答

(委員)

資料4の市民向け調査票の4ページ問9には選択肢の横に例が示されていますが、選択肢から離れているため、やや見にくいように感じます。各選択肢のすぐ横につけた方がよいと思うのですが、いかがでしょうか。

(事務局)

修正します。

(委員)

事前の打ち合わせの時も相談させていただきましたが、アンケートの対象者数について数字の根拠をお聞かせください。今回の調査では市民2,000名、事業所300ヶ所となっています。市民2,000名については、豊川市全体の人口からすると1%強、世帯数からすると5%未満に相当すると思います。それに対して事業所は豊川市にどれくらいあるうちの300ヶ所でしょうか。

(事務局)

市民2,000名、事業所300ヶ所の根拠として、まず前回計画策定時の調査の対象者数を踏襲しています。また、豊川市全体として市民は約18万人ですが、今回の調査は18歳以上が対象となるため、対象者数は約15万人となります。その15万人の中から回収率を50%としたときの統計学的に有意な数値はもっと小さな数値となるのですが余裕を見て算出した結果です。事業所は法人市民税を納税している先を対象としました。納税している事業所は市全体で約3,900社あり、こちらも回収率50%として算出しました。

(委員)

事業所は3,900分の300であるのに対し、市民は15万分の2,000なので、その辺は大丈夫かなと思います。前回は踏襲していることは置いて、もう少し数字の裏付けを確認しておいた方がよいのではないのでしょうか。もし市民が15万分の2,000の比率で十分であれば、事業所は300ヶ所も必要ないのではと思います。

(会長)

今回の算出方法については、95%の信頼度でどれだけ選んだらいいかという計算をしていると考えられます。母集団の数が多くなるほど、必要な対象者数は少なくなります。実際、新聞社の世論調査でも全国で2,000～3,000人を対象に実施しています。ただ、豊川市は小さい町なので、もう少し丁寧に行ってもいいのではという考えもあると思います。95%の信頼度を満たすギリギリの対象者数にするのではなく、少し多め

に調査しても良いかも知れません。一般的な調査だと、回収率は2～3割程度です。この回収率をどのように上げるかということです。

(委員)

前回調査実施時の回収率はどの程度でしたか。

(事務局)

平成27年度豊川市環境基本計画見直し版の111ページをご参照下さい。市民向けが2,000人に対して920人の回答、回収率が46.0%、また事業所については、300事業所に対して149事業所の回答、回収率が49.7%と、割といい数字になっています。

(会長)

地元のことから、関心が高かったんですかね。それでも半分しか回収できないわけですから、回収率をいかに高めるか。何だろうと思って見てくれる工夫があったほうがいいかもしれないですね。答えやすくする工夫をして回収率を高めるようにがんばってほしいです。

市の広報に載せたりはできないんですかね。

(事務局)

広報は基本的に全市民対象の情報を掲載することが基本的な編集方針なので、一部の方が対象のアンケートは難しいと思います。

(会長)

どんなことをやったら回収率が上がるか。ほかの方向か知恵があればお願いします。

(委員)

特に個人向けの調査票では答えづらい設問があると面倒臭がってしまうように思います。そこで、市民向けアンケート調査をみると、まず問6において「豊川市において次の世代に残したいと思う環境資源はなんですか。」となっていますが、選択肢は全て大切だと思うので、その中から3つを選ぶというのは難しいと思います。一方、問7では具体的に各項目について満足度と重要度を選ぶようになっています。問6で訊いてることは問7でも含まれてるので、問6であえて3つ選ばせるより問7のような形にしたらいかがでしょうか。また、問6は「文化財や伝統行事」といった環境資源とは関係がなさそうな選択肢があるなど、そもそも設問の意図が見えづらいので、答えるのが面倒になって回答しないということになりかねません。問6の設問自体を問7に入れた方が良いのではないのでしょうか。

(事務局)

問6については、選択肢全てが重要と思われるものの、その中であえて3つに優先順位をつけるとしたらどれが最も重要であるかを聞いています。

(委員)

ただ、回答者の立場を考えると、大事だけある程度満足している項目は選択せずに、不十分だと思う項目を選択すると思われます。また、問7で重要度を聞いていますが、これはなぜだろうとか、優先順位をつけるのはなぜか？優先順位が低いものはいいいのか、

など回答者が判断基準に困るのではないかとということを心配します。

(会長)

問6から「〇は3つまで」の制限を取るか、もしくは問7との統合を図るということですね。

(委員)

「いくつでも」となったら全部〇をつけられれば、優先順位はわからなくなる。なぜ優先順位を知りたいのか理由の説明が必要と思います。

(事務局)

優先順位をつけるのは、市民が大切と考えている資源が何なのかを把握したいという考えからです。ただ、委員ご指摘のように、問6の「次の世代に残したいと思う環境資源」は、「今満足している資源」なのか「これから良くしていきたい資源」なのか、といったように回答者によって捉え方が異なる可能性はありますので、それではまずいかなと考えています。

(委員)

問7で満足度と重要度を訊いてるので、それでいいのではないかと思います。

(事務局)

問6で3つ選ぶことが難しいのではないかとのご意見については理解しました。問6と問7を統合する方向で考えていきたいと思います。

(事務局)

項目が似通っているということで、特別に問6を設定しなければならない理由があるかどうか検討したいと思います。

(委員)

問6の選択肢4に「農地」とありますが、農地は森林や水辺と比べて判断基準が異なるように思います。

(事務局)

そのようなところも含めて再度検討します。

(委員)

問6で「残したい」と思うことは、問7で「重要だ」と一緒という整理でよろしいですか。

(委員)

重要度を知りたいのであれば、問7の聞き方のほうが答えやすいのではないかとことです。

(委員)

満足度は別ですからね。そうすると、項目が「満足度」と「重要度」と「残したい環境資源」の3つになってしまいますか。

(事務局)

おおまかな整理ですが、問6の選択肢の要素を問7の選択肢に取り込むような形で融合させることを考えています。

(委員)

市民向け調査票は、冊子と挨拶文の構成という認識でよろしいですか。

(事務局)

はい。本来は、事業所向け調査票と同様に挨拶文を含めて一冊に収めたかったですが、いろいろなご意見を反映しているうちにページ数が増えたため、市民向け調査票では挨拶文を別にしています。

(委員)

自分がアンケート調査票をもらった場合、7ページを回答し終わった後、これで終わったと思って最終ページをちゃんと見るか分かりません。最終ページの自由意見まで書いてもらうためにも何か工夫があったほうがよいと思います。

(会長)

7ページの下部に矢印をつけて「あとひと息」とか「次のページにお進みください。」というような文言を入れた方がよいということでしょうか。

(委員)

そのような工夫があった方がよいかなと思います。

(事務局)

調査票の素案が完成した時に市役所のパートの方々に対して試験的に回答していただきました。その際、特に答えづらい箇所はなかったとの返事はいただいています。ただ、最後のページの回答を忘れてしまうということもあり得るので、最後のページへ誘導するような文言の追加を検討したいと思います。

(委員)

自分がアンケートに当たったら、在来種、日本固有の種の保護のことを書きたいなと思いましたけど、書くとすれば問18か問19かなと思っていました。これから豊川市が目指していく環境の中で日本古来の動植物の保護も重要かなと思います。

(会長)

本日の意見を踏まえて、事務局には再度ご検討をお願いするということでお認めいただいたとしてよろしいでしょうか。

議題(2)、次期豊川市環境基本計画策定に向けたアンケート調査票については、お認めいただいたということで終了します。

### 3 その他

#### 事務局からの連絡

次回：平成31年2月7日(木)午後1時30分、本34会議室で開催

#### 委員からの発言

(委員)

国の第5次環境基本計画についての説明会を受けた際、マイクロプラスチックによる海洋汚染について、日本リサイクル協会から説明があったのですが、ペットボトルについて異物混入防止のため、ラベルをはがしてつぶさずに出すことが望ましいという話が

ありました。豊川市ではラベルはそのままつぶして出してくださいということで市民にお願いしていますが、国の最新の動向も把握して対応を検討されたい。

(事務局)

今まで引き取っている業者の意見も聞いたうえで、検討したいと思います。

(委員)

資料2で次回会議の議題として、アンケート調査結果の報告とありますが、前回の計画策定時のアンケート調査と比較して、10年間の変化の傾向についても、教えてください。

15：10 会議終了